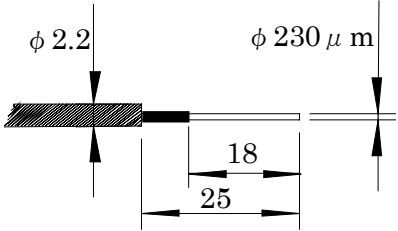



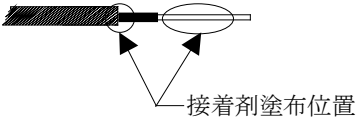
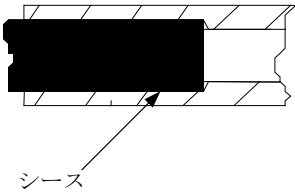
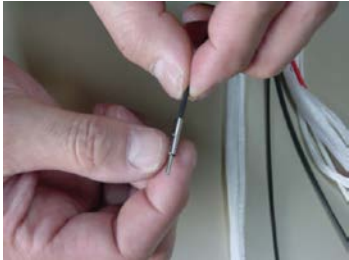
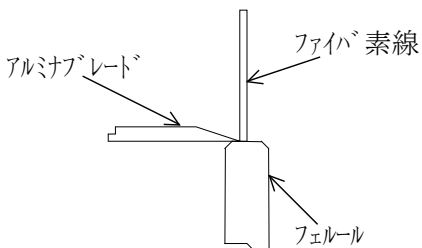


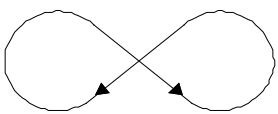

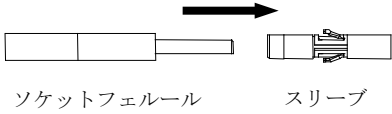




トリムトリオ 光コンタクト
PCF ワイヤリング説明書

No.	手 順	注 意 事 項
1	<p><u>光ファイバのストリッピング</u></p> <p>1-1. $\phi 2.2$ シースのストリッピング ストリッパー 80WD-0006 を使用します。 ストリッパーの刃(No.16)にケーブルを挿入します。(適用皮むき長 25mm) 挟み込んで引張るとシースが剥き取れます。</p> <p>1-2. ケブラーのカット シースを剥いた後、余分なケブラーをカッターナイフでカットします。</p> <p>1-3. 保護コーティングのストリッピング ストリッパー 80WD-0010 を使用します。 ストリッパーの刃を $\phi 0.3$ に合わせてケーブルを挿入します。(適用皮むき長 18mm) 挟み込んで引張ると保護コーティングが剥き取れます。</p> 	<p>ファイバーにダメージが加わらないように注意して下さい。</p>  <p>シースのストリッピング</p>  <p>ケブラーのカット</p>  <p>保護コーティングのストリッピング</p>

No.	手 順	注 意 事 項
2	<p>ケーブルの接着</p> <p>2-1. ストリップしたファイバケーブルに接着剤を塗布します。下図を参考にして適量を塗布して下さい。</p> <p>弊社推奨接着剤：45LV(80WG0014)</p>  <p>接着剤塗布位置</p> <p>2-2. 接着剤を塗布したファイバケーブルをコンタクトの後方から挿入します。ケーブルシース（φ2.2）がコンタクト圧着部の内壁に突き当たるまで完全に挿入します。</p>  <p>シース</p> <p>2-3. オープンを使用して接着剤を硬化します。 100℃、10～15分で硬化します。</p> <p>弊社推奨オープン：(80WT0008)</p>	<p>接着剤は弊社でも用意しておりますが、通常、光ファイバに使用するエポキシ系のものであれば、弊社推奨以外でも問題ありません。</p>  <p>ケーブルをコンタクトに挿入</p> <p>オープンには弊社指定以外のものでも問題ありません。</p> <p>フェルールから飛び出した光ファイバの先端を折らないように注意して下さい。必要な場合は弊社のゴムサポート(80WT0005)を使用してフェルール先端を保護して下さい。</p>

No.	手 順	注 意 事 項
3	<p>ファイバの切断処理</p> <p>3-1. アルミナブレード(80WC-0004)を使用します。初めにフェルール先端付近のファイバ側面にブレード僅かな力を加えながらスライスします。この時にファイバを折らないように注意して下さい。</p> <p>二本の指でファイバを軽くつまみ、瞬時に引張して下さい。</p>	<p>ブレードでファイバ素線を切断しないように注意して下さい。</p> 
4	<p>フェルール端面の研磨</p> <p>4-1. 研磨用プレート 80WP-0005 について このプレートは底面の 6 個所に粘着性のあるストッパーがあり、研磨時に研磨用ディスクを固定することができます。プレート表面はきれいにして、割れたり、傷つかないように注意して下さい。 プレートを使用するときは、必ずエタノールを用いて表面をきれいして下さい。</p> <p>4-2. 研磨治具 80WP-0018 について この治具はコンタクトフェルールをセットして先端を研磨するときに使用します。</p> <p>4-3. 研磨用ディスクについて 粗研磨用 9μm (青色) 80WP-0014 仕上研磨用 0.3μm (白色) 80WP-0015 これらのディスクはフェルール端面の粗研磨と仕上研磨に使用するもので、およそ 10 コンタクト分使用できます。</p> <p>4-4. 研磨作業</p> <p>粗研磨 9μm (青色) のディスクを使用し、8 の字を描くように軽く研磨します。研磨紙に金属の黒い後が見られたら、すぐに止めて、外観チェックをして下さい。</p> <p>仕上研磨 0.3μm (白色) のディスクを使用し、8 の字を描くように軽く研磨します。 (回数は 20~30 回ほど) 研磨後はフェルール端面をエタノールでよく洗浄して下さい。</p>	<p>ご購入後、最初に研磨用プレートをご使用になるときは、プレート表面に貼付されている保護用フィルムを剥がしてからお使い下さい。</p> <p>仕上研磨の途中では、ディスクを交換しないで下さい。仕上がりにムラが発生することがあります。</p> <p>ディスクの寿命を延ばすために、使用後はその都度エタノールで洗浄して下さい。</p>  <p>粗研磨</p>  <p>仕上研磨</p>  <p>研磨時の 8 の字動作</p>

No.	手 順	注 意 事 項
5	<p>研磨面の検査</p> <p>拡大鏡 80WL-0001 を用いて検査します。 ファイバ端面に割れや大きな傷がないかどうか確認して下さい。</p> <p>ピンコンタクトはこれで完了です。 ソケットコンタクトのみ6項へ進んで下さい。</p>	<p>拡大鏡</p> 
6	<p>ソケットコンタクトの組立</p> <p>6-1. 圧入工具 T-RCPF3H-01 を使用します。 検査の終了したソケットフェルールとスリーブに軽く挿入します。</p>  <p>ソケットフェルール スリーブ</p>  <p>6-2. 下図のように工具にセットして工具をゆっくりと作動させ、圧入を完全に行ってください。</p>  <p>6-2. 工具のラチェットが開放されて刃からコンタクトを取り出すと完了です。</p>	<p>コンタクトランスを変形させないように組立時の取扱いには十分注意して下さい。</p>
7	<p>その他</p> <p>7-1. コンタクト装着済、未嵌合コネクタについては、水、油はもとより、防塵についても十分に配慮する。</p> <p>7-2. ピンコンタクトを曲げたり、ソケットコンタクト内部に異物を差し込んだりすると、正しい接触ができなくなる場合がある。</p> <p>7-3. 保管条件</p> <p>温 度 30℃ 以下</p> <p>湿 度 60% 以下</p>	